

11月例会「今、現実を考える」

～倒産・廃業の危機を真正面から考える～

11月28日 於 食事苑京阪

現在の我々の取り巻く経済環境は非常に厳しいものがあります。過剰品質、短納期、受注価格の低下など日常の業務での問題からデフレ、不良債権と銀行の貸し渋り、中国の躍進など社会問題まで、さまざまな問題があります。また状況の変化は激しく、それに柔軟に対応していかなければなりません。「特別儲かりはしないけれど、食うことは出来る。」これがこの業界のベースではないでしょうか？だから我々の親父たちもこの仕事をやってきているのだと思います。

しかし「堅実に生きていけば、特に問題は起こらない」が当たり前の時代は終焉したのでは無いでしょうか？特に所謂「ジリ貧」や「何とかなるやろ」の危機感不足が怖い！怖い。気が付くともう大変なことになる直前に面してしまっている・・・ということは無いとは言えない状況まで来ているのに、今我々はそれらに対してあまりにも準備不足、無防備な状態にあると思います。

今こそ、現実を正視して考えなければならないと思います。自分(会社)を取り巻く環境、取引企業との関係と今の状態、業界の動静、銀行の評価、そして会社の内容など冷静に客観的に自分で評価し、今後考えられる”危機”に対し十分にシミュレーションしていかなければなりません。そして会員相互に考え、悩むきっかけ作りの例会として11月例会を企画いたしました。

★11月例会の構成と内容

体験談講演(二例)、グループディスカッション(5グループ)の二部の構成としました。

その後各座長から総括をお願いしました。(内容は下記の通り)

体験談講演では元会員西村享之氏に「倒産、その時」を題に講演。

生田泰宏氏に「故和田氏への想い」を題に発表。今年の1月の悲劇から和田氏がキセイレンに残してくれたものを、今改めて考え直しました。

グループディスカッションでは、秋田社長、山本常務、衣川社長、生田社長、寺田社長の計5名の座長のグループでキセイレンの良さである「”本音”で語る」を主旨に沿って進行し、熱く語り合っていました。総勢42名という多くの方にご参加いただき御話しを交わしていただきました中で座長のお話や、多くの先輩の方々の御話しから、危機感や怖れを感じられた方も多かったのではないのでしょうか？また、それに対する、対応策や心の持ち方、仲間との関係など様々なヒントを頂戴できたように思います。が、もっともっと深く、「どうすれば良いのか」ということを教えていただけたら、考えられたらと思っております。

「あともう少し、あともう一步を踏み出す知恵と勇気」を見つけに、更なる時間を頂戴できる機会をいただければと思っております。

本当に今回の例会では多くの先輩方の機青連への想いや後輩への愛情をいただき開催できることができましたことを、幹事一同あらためて御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

